

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第51週 (12/14-12/20) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	51週	50週	49週	48週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	12/14-12/20	12/7-12/13	11/30-12/6	11/23-11/29	12/7-12/13
			51週	50週	49週	48週	50週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		1	1	2	2	23
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		13	7	16	5	75
	感染性胃腸炎		28	37	31	21	230
	水痘		6	8	3	7	33
	手足口病		1	0	0	0	3
	伝染性紅斑		3	0	0	0	2
	突発性発しん	↓	9	12	8	11	49
	ヘルパンギーナ		0	2	3	1	5
	流行性耳下腺炎		0	4	2	1	13
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2	0	0	1	1
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	0	0	0	12
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(145件)

※新型コロナウイルス感染症138件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	ツベルクリン反応	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	40歳代	IGRA検査等		男性	70歳代	細菌の分離・同定及び薬剤耐性の確認
結核	女性	70歳代	IGRA検査等			病原体遺伝子の検出等	
ウイルス性肝炎	男性	30歳代	血清IgM HBc抗体の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等
梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出等				

・第51週は、結核3件(150)、ウイルス性肝炎1件(4)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(13)、梅毒1件(23)、新型コロナウイルス感染症138件(1350)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第51週のコメント

<突発性発しん>前週より減少し0.50となったが、過去10年の同時期と比べると多めのまま。

■ トピック ■

＜新型コロナウイルス感染症＞

第51週の発生届は、これまでで最多であった前週の80件よりおよそ1.7倍増加し138件となり、発生以来初めて100件を上回りました(図1)。男性がおよそ70%(97件)、女性がおよそ30%(41件)で、年齢中央値は33歳(男性30歳、女性34歳)となっています。年齢階級別では、20歳代が34.8%(48件)と他の世代に比べて突出しています(図2及び表1)。区別の発生状況は、全区で増加しており、前週からの増加率を比較すると稲毛区(2.6倍)で最も多くなっています(図3)。令和2年の累積数は1350件となっており、男性が60.0%(810件)、女性が40.0%(540件)で、年齢中央値は37歳(男性37歳、女性38歳)となっています。年齢階級別では20歳代が27.9%(377件)と最も多くなっています(図4及び表2)。

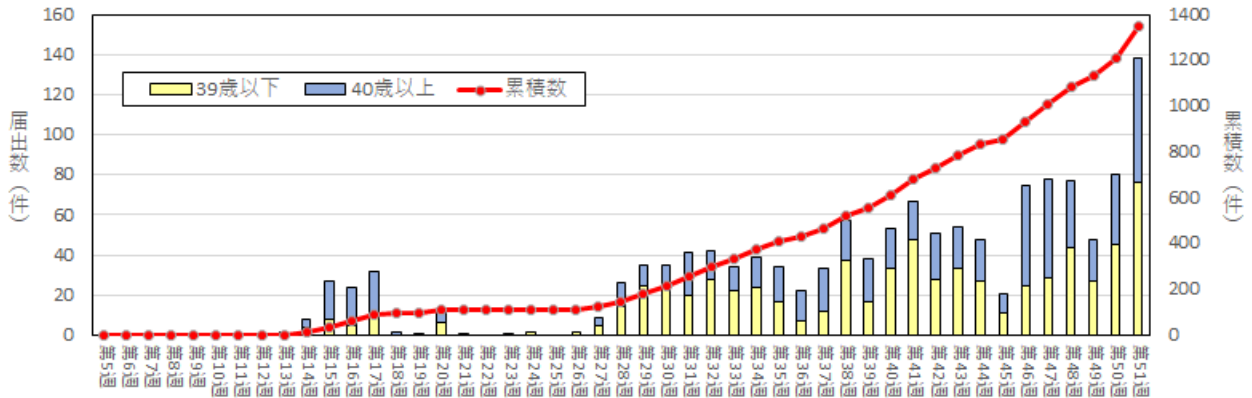


図1 発生届状況
(受理週別 千葉市 n=1350)

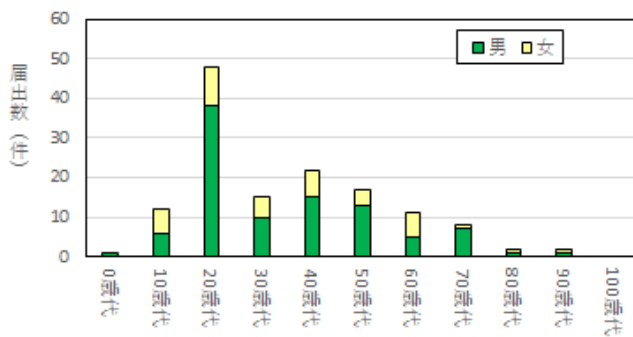


図2 第51週の発生届状況
(性別及び年齢階級別 n=138)

表1 性別及び年齢階級別
(第51週)

年齢中央値	30歳		34歳		33歳	
	51w	男	女	計	%	
0歳代		1	0	1	0.7%	
10歳代		6	6	12	8.7%	
20歳代		38	10	48	34.8%	
30歳代		10	5	15	10.9%	
40歳代		15	7	22	15.9%	
50歳代		13	4	17	12.3%	
60歳代		5	6	11	8.0%	
70歳代		7	1	8	5.8%	
80歳代		1	1	2	1.4%	
90歳代		1	1	2	1.4%	
100歳代		0	0	0	0.0%	
計		97	41	138	100%	
%		70.3%	29.7%	100%		

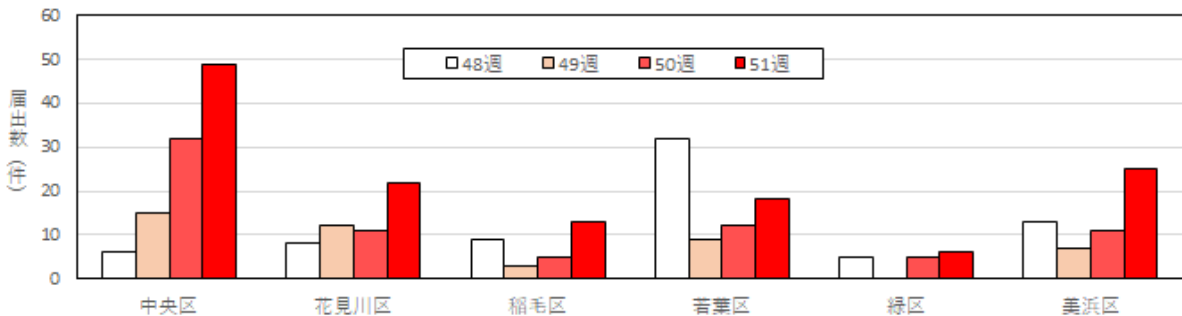


図3 区別の発生届状況
(直近4週分)

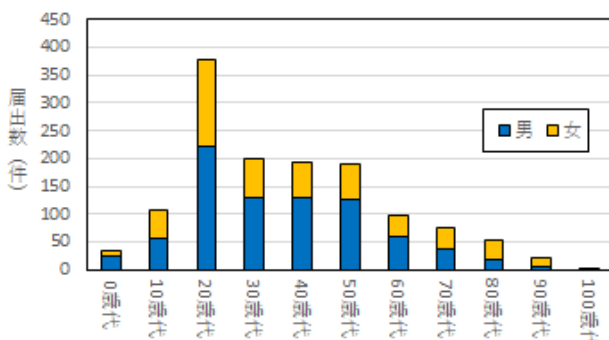


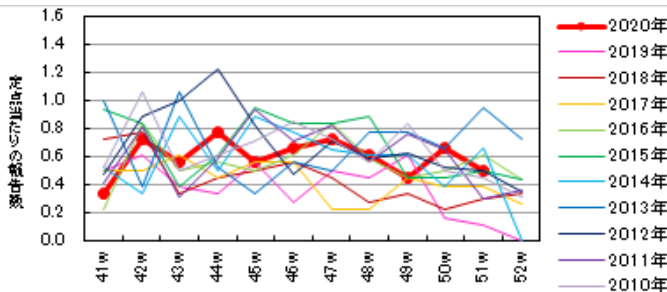
図4 令和2年の発生届状況(第5週～第51週)
(性別及び年齢階級別 n=1350)

表2 性別及び年齢階級別
(全期間:第5週～第51週)

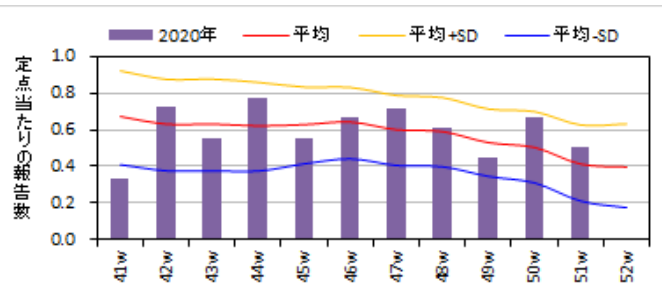
年齢中央値	37歳		38歳		37歳	
	男	女	計	%		
0歳代	26	7	33	2.4%		
10歳代	57	50	107	7.9%		
20歳代	222	155	377	27.9%		
30歳代	129	72	201	14.9%		
40歳代	128	64	192	14.2%		
50歳代	126	65	191	14.1%		
60歳代	61	38	99	7.3%		
70歳代	38	36	74	5.5%		
80歳代	19	35	54	4.0%		
90歳代	4	17	21	1.6%		
100歳代	0	1	1	0.1%		
計	810	540	1350	100%		
%	60.0%	40.0%	100%			

<突発性発しん>

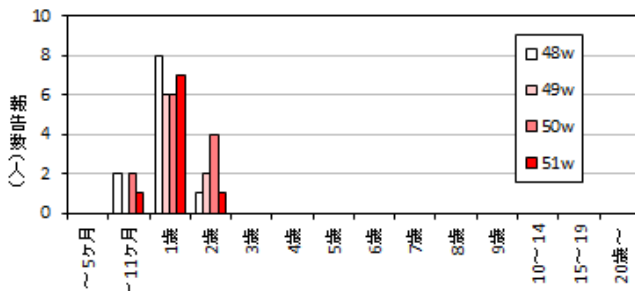
全国レベルの第50週は0.39で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、熊本県、福島県及び愛媛県の順に多く報告されています。千葉県は0.37で全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第51週は前週より減少し0.50となりましたが、過去10年の同時期と比べると多めのままととなっています。区別の発生状況は、緑区(1.25/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2020年第1週から第51週までの累積報告数は542件で、男性が53.0%(287件)、女性が47.0%(255件)で、年齢階級別では1歳(57.6%:312件)、6-11か月(22.5%:122件)、2歳(15.9%:86件)の順で多くなっています。



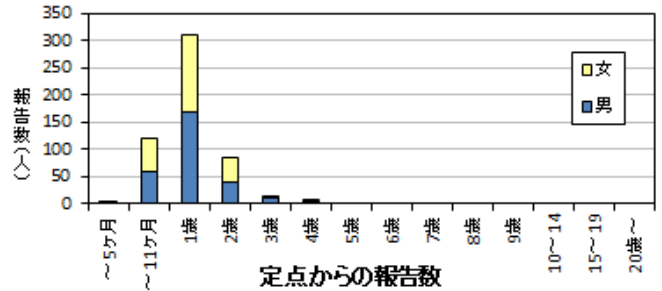
各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2010-2020年 41w-52w)



過去10年間との比較
2020年 41w-52w



定点からの報告数の推移(直近4週分)



定点からの報告数
2020年 1w-51w n=542